

第一回 発達障害者支援地域協議会

発達障害児者の理解とこれからの支援

2019. 9.30 アシスト 21



北九州市立総合療育センター小児科 河野 義恭

発達障害への取り組みは..

社会で最重要の

- 予防医療
- 予防教育

人と時間と費用をかける価値がある

北九州を明るく住みよい町にする土台作り

発達障害診療は危機的状況

- 増え続ける相談で、新患外来が追いつかない
- 親は個別的な診断・助言を求めている
- 医師・心理師の役割だが、人員が足りない
- 時間のかかる診療、特殊な薬もあり、
後をお願いできる小児科、精神科、心療内科
も限られる
- 理想は育児・教育・医療・福祉・雇用での
発達障害の理解と個別対応力のUP
- 各分野での研修会は充実してもらいたい

療育センターの主診断名が激変した

1979年から1983年にかけて（約40年前）

私は練馬区立心身障害者福祉センターで発達相談・児童精神の栗田 廣 先生（現 東大精神科名誉教授）が自閉症と診断される幼児が多いことに驚いた

1998年 Lorna Wing 「自閉症スペクトル」の邦訳出版

2000年頃より、日本独自の「軽度発達障害」という概念

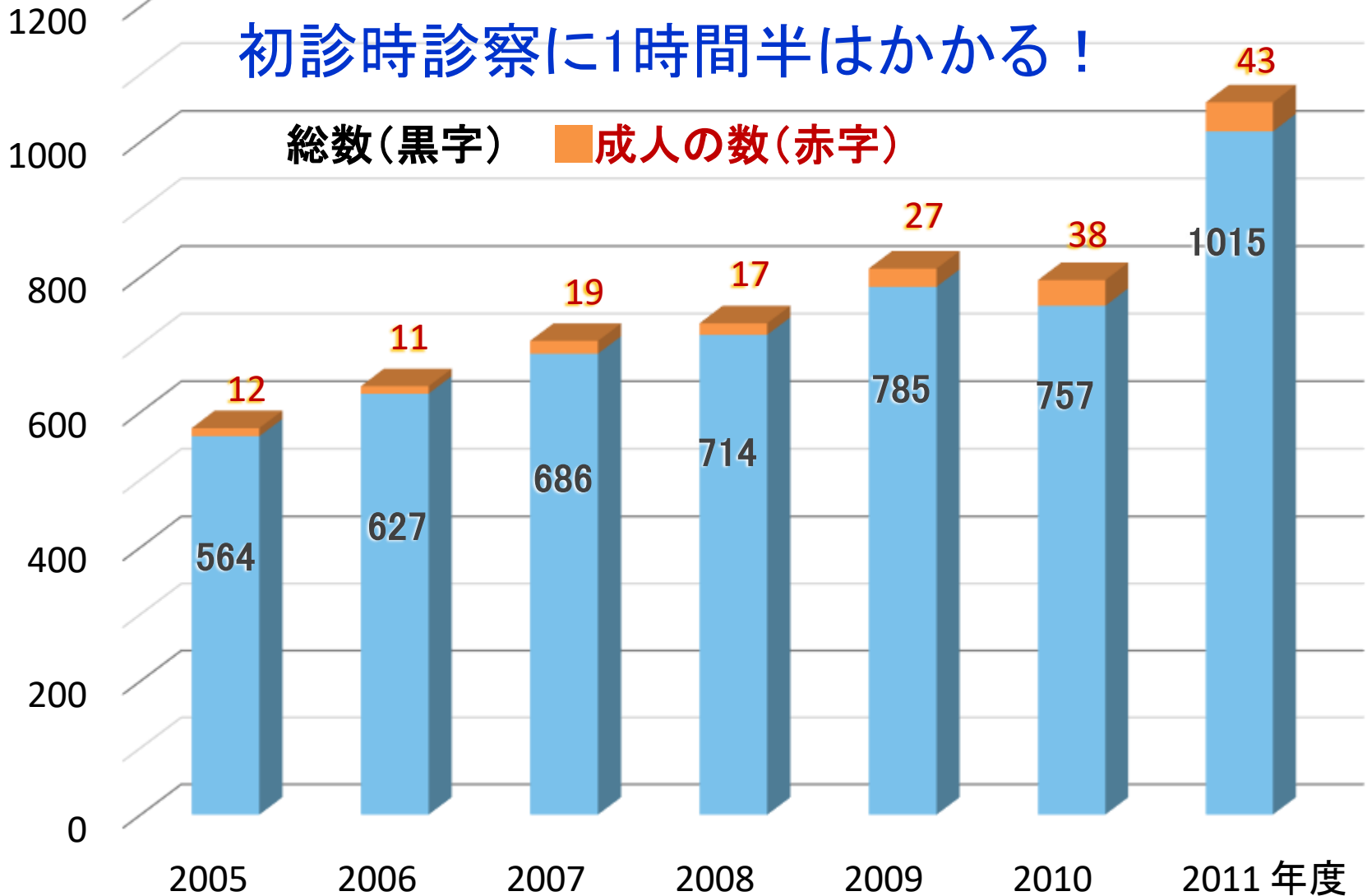
2003年 初めて「この子がアスペルガー症候群！」

2003年11月 発達障害者支援センター「**つばさ**」設置

2004年4月 特別支援教育**コーディネーター養成研修**開始

発達障害の新規受診者数

北九州市立総合療育センター（2005～2011年度）



発達障害について考えてきたこと

- ① 自閉症スペクトラムとADHD、LDの併存をどう捉えるか
- ② かつて言語表出や理解で、追いついてきた子どもたちは何だったのか
- ③ 知的障害と発達障害は、分けて考えられるのか
- ④ これだけの子どもたちが「発達障害」を抱えているなら様々な社会問題の背景となっているのではないか
- ⑤ 発達障害とは固定する「障害」なのか「個性」なのか
- ⑥ 様々な既知の障害、疾患でも発達障害の視点での理解・支援が必要なのではないか
- ⑦ はたして、グレー・ゾーンという捉え方でよいのか
- ⑧ 発達障害の中核障害、中心症状とは何か

発達障害 ≠ ずっと障害、障害者

適職が見つかる人、
医学部・歯学部に進む人もいます。

就職が難しくても、障害者枠就労やA型・B型
事業所での仕事と障害年金で生計を立て、
相談支援専門員・家事ヘルパーの利用、
社協やNPOの金銭管理サービスなどを受け、
自立されている人たちもおられます。

障害から個性への援助

障害

- 学習・習熟・代償
- 成長・発達

適 応

個性

- 正しい理解
- 工夫と支援
- 得意を伸ばす
- 最適な環境

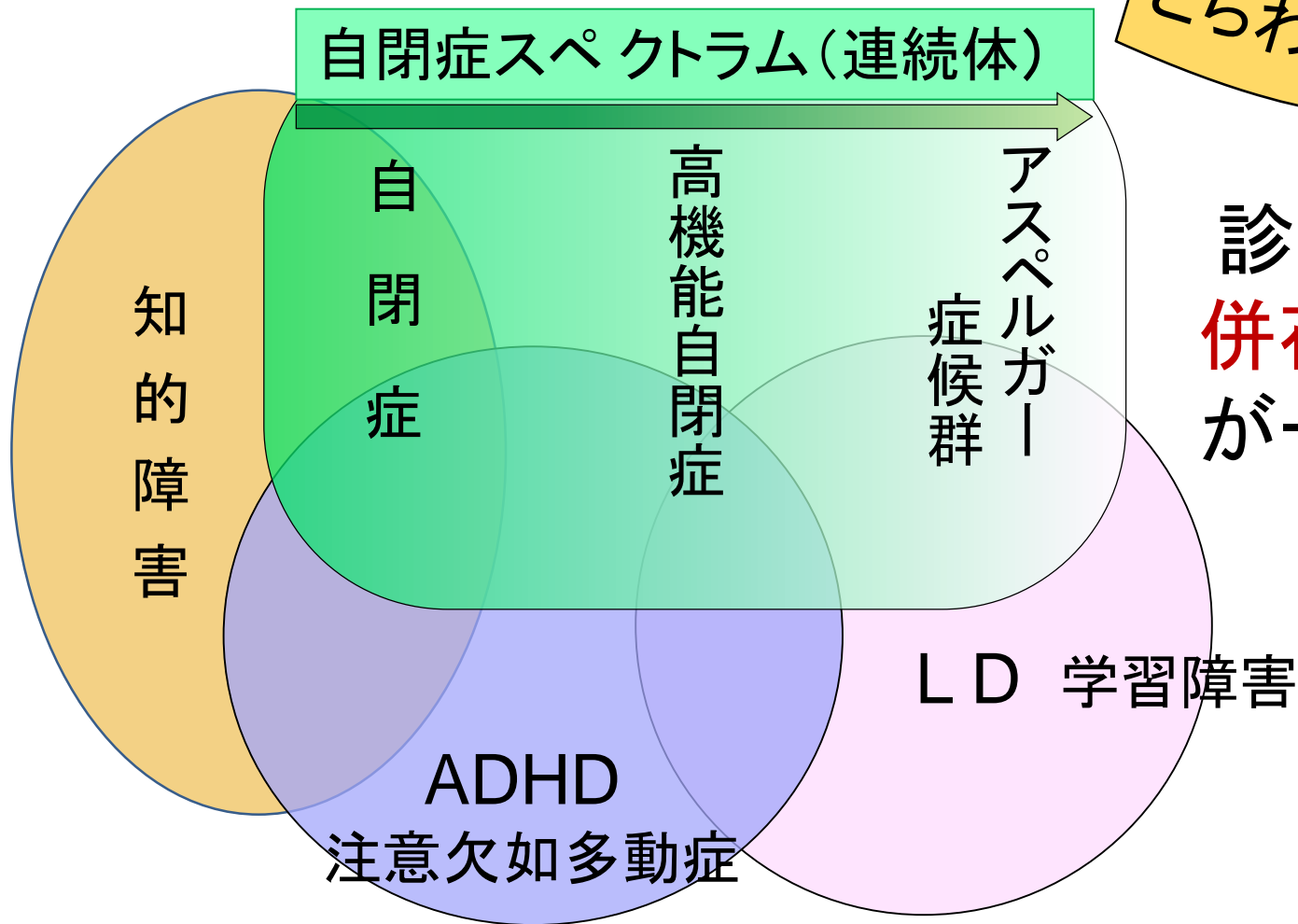
発達障害は定型発達の延長線上か

「誰だって、そういうところが、
いくつかあるよね」

大変さのレベルが全く違います！

生活・学習・集団参加・対人交流など、
いくつもの際立った困難を抱えている

発達障害の連続性・併存性



一つの診断名にとらわれない!

診断名では
併存症列記
が一般的に

医学的には知的障害も発達障害に含まれる

追いついたかに見えるアスペルガー症候群 1

ギルバーク Gillberg (SWE) 2002

ASの子どもの3人に1人は、3歳頃までほとんどあるいは全くしゃべらず、その後1～2年の間に、表出言語がほとんど爆発的な勢いで発達する(出典1)

アトウッド Attwood (AUS) 1998

小児期の初期に典型的な自閉症の特徴を示していた子どもの一部は、後には複文を用いて話す能力、基本的な社会技能と、通常範囲の知的能力を発達させてくる。自閉症スペクトルにそって発達し、ASの状態像になる(出典2)

アイゼンメイジャー Eisenmajer (AUS) 1996

ASの子どもの50%近くは、言葉の発達が遅れるが、5歳までにはよく話すようになる(出典2)

追いついたかに見えるアスペルガー症候群 2

オゾノフ、ロジャーズ、ペニントン (USA) 1991

Ozonoff, Rogers, Pennington

能力を発達させた子どもたちは、もはや無言で孤立しているのではなく、その行動と能力の特性はアスペルガー症候群の診断に一致するようになる(出典2)

シャー Shah (GBR) 1998

こうした進歩が始まると、それは非常に急速であり、5歳になる少し前あたりがその変化の時期となります(出典2)

自閉症スペクトラムでは高機能群が7割
知的障害3: 境界域2: 正常域5

カーデショー、ギルバーグら (SWE) 1999年

出典1) クリストファー・ギルバーグ 著 田中康雄 監修 森田由美 訳

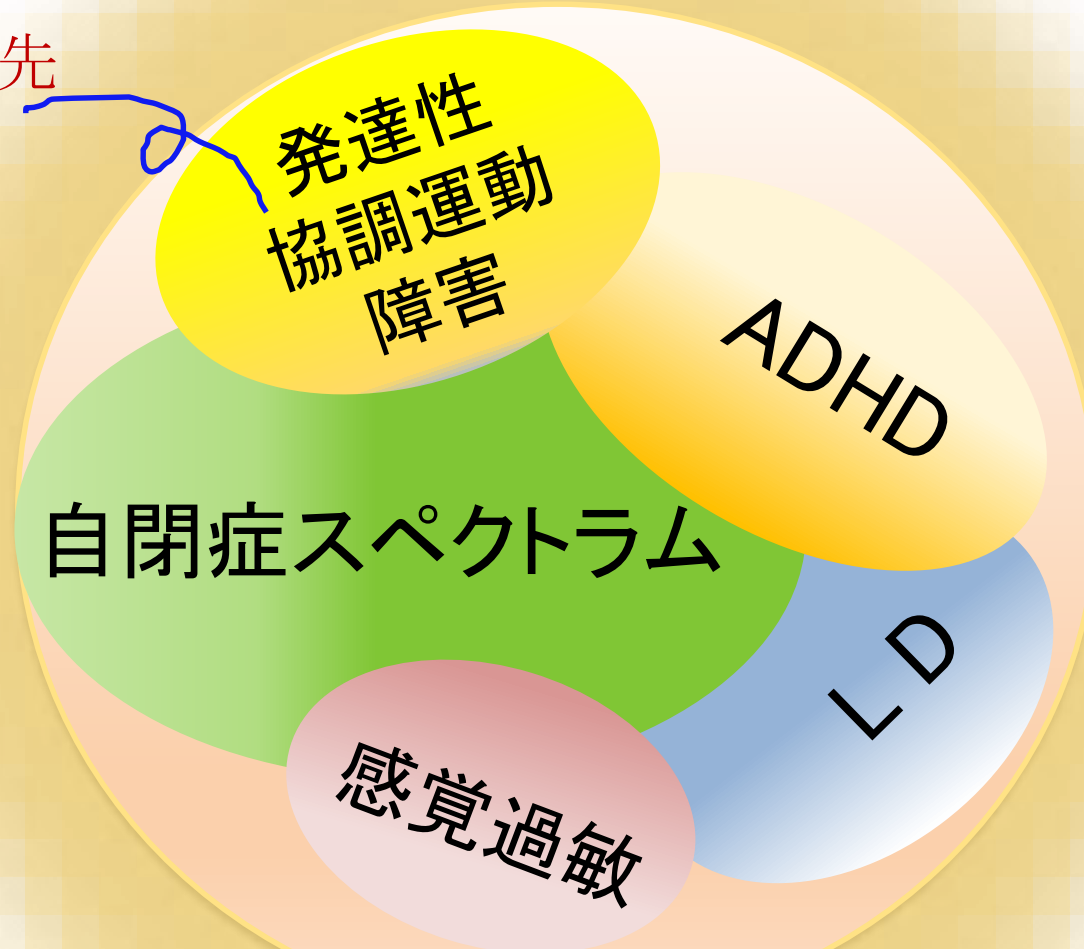
『アスペルガー症候群がわかる本 理解と対応のためのガイドブック』 明石書店2003年

出典2) トニー・アトウッド 著 富田真紀、内山登紀夫、鈴木正子 訳

『ガイドブック アスペルガー症候群 親と専門家のために』 東京書籍1999年

発達障害の人の脳機能の特性

運動や手先
が不器用



各特性の程度、組み合わせは様々！

行政的には別扱いだが、
医学的には知的障害は発達障害に含まれる

DSM-5(米国精神医学会の診断基準)では
神経発達障害(神経発達症)に知的障害も
含まれる。

知的障害でも、自閉症スペクトラムの特徴を
たいてい伴っており、特にまじめで、頑張る受動型
ではその特徴に気づかれにくいことに要注意。

知的障害児の子育てや特別支援教育、福祉
サービスにおいても、自閉症スペクトラムを含む
発達障害の視点を忘れないことが、きわめて重要
と考えている。

知的障害に入らない人にも支援が広がる

困っているのに、今まで理解や支援が乏しかった IQで**境界域知能**の方、**正常域**の方に「発達障害」の特性から工夫・助言することで、役立つことができる。

「発達障害」として、「精神の手帳」で就労支援が受けられ、さらに障害年金（精神）の対象となったことも大きな前進である。

DSM-5での変更点 とくに自閉症スペクトラム

- 神経発達症(神経発達障害)群が登場
Neurodevelopmental Disorders
- 自閉症スペクトラムとADHDの併存を認める
- アスペルガー症候群の呼称が消えた
- 自閉症スペクトラムの診断基準で
「現在あるいは過去に認められる」と縦断的に
- 感覚障害が基準に加わった

発達障害

いじめ、不登校、学業不振

不眠、チック、心身症、場面緘黙

被虐待、引きこもり、家庭内暴力

拒食症、依存症、非行、自傷、自殺

パニック障害、強迫性障害、PTSD

うつ病、人格障害、統合失調症

NEET、ホームレス、貧困

生活習慣病、浪費

ストーカー、DV、児童虐待、犯罪

詐欺被害、誤認逮捕、売春

二次障害

治療教育を受けなかった 発達障害の成人が 周囲を困らせることも

- **DV**(配偶者間暴力)、**児童虐待**
- **カサンドラ症候群** パートナーが病んでしまう
- **パワハラ**(上司・先輩によるいじめ)
アカハラ(教官から)、カスハラ(顧客から)
- **モンスターペアレント**(親) 学校の先生を困らせる
- **モンスターペーシエント**(患者) 医師やスタッフを困らせる
- **モンスター社員** 常識外れな要求や自己正当化で、
周囲を悩ませる

発達障害と二次障害

1. 発達障害の早期発見・早期支援で
二次障害を防ぐ
2. 二次障害が先に気づかれたときに、
背景にある発達障害を確認し、
対応や治療のアプローチを変える

いじめ・叱責がトラウマ、退職を繰り返す

- 中卒後、いじめのフラッシュバックが何年も
- 学生時代、授業中の私語・雑音で怒鳴る
- 就職できず、バイトでひどい叱責を受ける
- 精神の手帳を取って就職するが叱責がフラッシュバック、「うつ」に。退職を繰り返す
- 新たに障害枠で仕事につく
仮眠や休憩がみとめられ、快調。不眠改善

叱るのは最悪

佐々木正美先生

- 最悪の対応が、叱りつけること

どれだけ周りが傷つけたかで
将来の困難さが決まる

トラウマが
消えない

- 大人が理解せず頑張らせて、苦しめる
弱点や欠点を無理に直そうとしない
- 当たり前のことができない子たちです
「普通」を目指さない

間違った熱心さは、放置よりも危険

気づかれない障害、見えない障害

- 子どもの困難に気づかない大人が、子どもに「普通」を求め、追いつめる
- 仕事で壮絶に困っているのに、「普通でしょ」と言われ、何も言えない。

すぐそばで溺れているのに、
気づいてもらえない人の絶望感

障害枠就労 2年目で苦しむ

頑張り屋で、仕事にはすぐ慣れて、
職場で、「何でもできるのに、どこが障害？」

2年目で、勤務シフトが不規則に。
当然のように、新人の指導まで任された。
仕事から帰ると生気がない、笑わない。
会話で場違いなことを話すことが気になる。

学校で特性の把握もできておらず、
就職時の「取説」も用意されていなかった。

大学・企業は、まだ欠点に目を向ける

- 長所を活かす視点での選抜や採用は限定的
- 発達障害が知られるようになり、進学や就職で障害をオープンにすると、不合格の可能性が高まったり、企業や役所が採用に当たり、彼らの苦手なことに焦点を絞って、ふるい落とすことも心配される。
- 現状ではクローズで受験して、合格後にオープンにして、配慮を求めることが現実的
- 診断を伝えて配慮を職場に求めたら解雇の例も

「合理的配慮」以前に排除される心配

今すぐ、園・学校・企業に望むこと

- 叱責・体罰・暴言や 無視・排除をなくす
- 視点を変え、特性を理解
「得意」と「苦手」を見極める
- 何か手助けできることはないか、
まず本人、家族の話聞く
- 専門家に助言を求める
通訳を頼む、「取説」作り
- 職場内で理解・対応を共有・継承する
- 個別対応力をつけて行く

学校では教えてくれない大切なこと

- 言葉には裏の意味がある
- 波長が合わないと、友だちになれない
- 人との距離感が大切、つきまとわない
- どうしてもわかってくれない人もいる
- 頑張りは8分目、テストは60点でよし
- 「もう頑張れない」と大人に教えて
頑張り過ぎて壊れるより、学校を休め！
- どうにもならない嫌なことは
流す、切り替える、忘れる

感覚過敏への対策は遅れがち

- 人は平気と知らず、みんなも我慢してると思う
- 楽になる方法を知らない(着けるとわかる)
- 人と違う物を身につけることは恥ずかしい
- 仕事中はソフト**耳栓**、**イヤーマフ**を装用
- **ノイズキャンセラー**で、外出が楽になった
- 運動場は、まぶしくて目が痛い、頭痛が出る
- 教科書・ノートの白地がまぶしい
サングラス、遮光レンズが有効

「お母さんだから、わかるでしょう」

- 危険な「子どもの思い込み」
「自分と母親の脳は一体」という意識
奥平綾子氏は「脳みその同化」と呼ぶ
- 家庭内暴力の原因となる
- 目の前で「言い聞かせよう」としない！
声や口調、表情にも反応し悪循環

メモ、ホワイトボード、交換ノート、LINEで
視覚化し、冷静なやり取りを積み重ねる

発達障害の人と「魔の時間帯」

Arsenic Hour

学校・職場から**帰宅直後**

極度の緊張・疲労でへトへト状態。

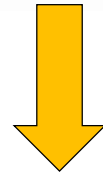
我慢していた感情が爆発、すぐ**パニック**になる

フル回転していた**脳のクールダウン**が必要

一人静かに過ごすのがよい

「**登校前**」も不安・葛藤による「**魔の時間帯**」

働いて、みとめられ、居場所ができる

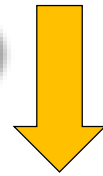


自己有能感、自己肯定感

自尊心

相談できる人
がいる

毎日が楽しい！



自己権利擁護

精神的な安定
安心・幸福感

これからの知的障害生徒の就労支援

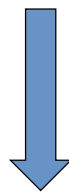
職場実習は「楽しかった」と言う生徒が多い

- 基礎訓練より place-then-train が効果 (IPS)
- 知的障害でも発達障害の特性を把握して、好みと長所からジョブ・マッチングを考え、生徒の自己紹介シート(取説)を作成する
- 職場に合わせて頑張らせるのではなく、会社側にも、得意を活かす持ち場、特性の理解と作業での工夫をお願いする
- 就労定着支援を外部機関と連携できないか

仕事につけない人の自立と安定に向けて

一人で生活できる見通しを持たせる

手帳・就労支援



障害年金

「不安」から「やる気」へ

支援する FP (フィナンシャルプランナー) も登場

発達障害の方の就労

- 一般就労(クローズでの就職がほとんど)

- 障害枠就労 月給 10万円くらい

①一般企業

②特例子会社

療育手帳または
精神の手帳が必要

- 福祉的就労

全員取得できている

就労継続支援A型(雇成型) 6万円くらい

就労継続支援B型(非雇成型) 5千~1万円

高機能群の障害年金受給者

療育手帳対象外 55名 (受給122名中の45.1%)

IQ 100 以上	21名	(正常)
85~99	24名	(正常下位)
76~84	10名	(境界域)
計	55名	

診断書に発達歴, 特性, 困難を具体的に記載
→ IQが高くて、申請者のほぼ全員が、自閉症
スペクトラムの診断で年金を受給できている。

20代 28名, 30代 19名, 40歳以上 8名

就労状況と月収(年金収入以外)

高機能の障害年金受給者 55名

一般就労	パート バイト	家業 手伝い	障害枠	A型	B型	就労移行	在宅・休職 ひきこもりが 多い
1名	3名	2名	20名	9名	5名	7名	8名
平均収入 10 万	5.9 万	16.5 万	10.8 万	6.7 万	1.2 万	0	0

就労に繋がっていないのは、

ひきこもり、場面緘黙、社交不安障害の方たち

障害年金は大きな支え

障害年金 2級 月6.5万円 (年額 78万円)
50年間(20~70歳)で約3,900万円受給

月に 年金6.5万 + 障害枠就労 10万円
または 就労支援A型 6万円

障害年金があれば障害枠かA型で生活できる

発達障害は年金受給で要注意

- 知的障害で自活困難なら、成人後診断されても初診日は0歳。保険料未払いでも受給可
- 発達障害・自閉症は、**20歳前の診断**が重要。なければ、必ず20歳から年金保険料を納めるか免除・猶予申請をしておくこと
- 発達歴、障害特性、生活・仕事で困難なことをしっかり医師に記載してもらう必要あり

「発達障害で、年金はもらえません」は誤り

自傷・他害が激しいなどの

強度行動障害成人の入所先がない

知的障害の方は高等部卒業後、自宅から仕事や生活介護に通う方が多いが、施設入所の例もある。

しかし、行動障害の強い方は、通所・入所施設ともになかなか受け入れが難しいようだ。

行動障害に対処できるグループホームや一人暮らしを支える重度訪問介護(24時間ヘルパーがつく)が、北九州市でも実現して欲しい。

そのためには、まず準備段階としての「集中支援」・「移行支援」拠点が、必要であろう。

ライフ・スキルを育て、親から自立させる

仕事と、単身またはグループでの生活の基盤

- ① 人に意思を伝える手段を身につけている
- ② 助けを求められる / 相談できる人がいる
- ③ 睡眠と生活リズム、時間を守れる
- ④ 食事と最低限の清潔管理、整容ができる
- ⑤ 体調不良に気づける チェックリスト、体温、鏡
- ⑥ 職場の仲間や異性と接するマナーを知っている
- ⑦ 金銭管理とお金を使うことができ、自分で物を選べる
- ⑧ 外出に必要な移動手段を使える
- ⑨ 自分が好きな余暇を楽しめる

支援者利用もあり

- ・ 早くから「させてみる」。「やりながら学ぶ」
- ・ 親以外の人との活動を体験させる(選択肢を学ぶ)

発達障害児者の支援のために

- **教育・医療・福祉での研修**を必修に近づける
- 不適切対応、差別、虐待（経済的含む）の相談先
- 専門官や審査会に指導の権限を持たせる
- 警察や司法への啓発と弁護士会との協力体制
詐欺被害、無用な契約、誤認逮捕、不当な取り調べ
- 発達障害児者は科を問わず、診れる医師が診る
- 病院でのタスクシフティングの拡大 傾聴・カウンセリング
心理士、ST、保育士、看護師、社会福祉士、PSW

おわりに

発達障害を抱える子ども、大人とその家族への理解と対策が、とても多くの生きづらい人たちの支援になり、二次障害を予防し、生活困窮を防ぎ、さらには笑顔で生活できたり、創造的な仕事で活躍できる人を育てます。

それはきわめて重要な課題であることを、ご理解いただければ幸いです。

これからも

総合療育センター

発達障害者支援センター「つばさ」

特別支援教育相談センター

へのご支援をお願い致します